

第1回福祉・健康部会 まとめ

日 時 平成21年7月27日（月） 午後7時～午後9時20分
場 所 上京区役所2階大会議室
出席者 岡崎部会長，安藤委員，大井委員，桶谷委員，加藤委員，左近委員，
田中委員，西川委員，福田委員

部会長ミニ講演摘録

■テーマ：『安心して暮せるコミュニティづくりをめぐる』

○地域福祉とは

（1）住民の暮らしをささえる保健・医療・福祉の制度・サービスの地域での再編

- ・住民の暮らしをささえる保健・医療・福祉の制度・サービスは、法律により国の方で全国一律の制度がつくられ、地方自治体によりサービスが提供されるが、それぞれの地域で本当に利用しやすい状況になっている必要がある。
- ・必要な人に情報が届き、どういうサービスを受けたいのかを教えてくれる、援助してくれる方がいて、その方とのやり取りを通じて、どういサービスを利用したらよいか分かっていなくてはならない。
- ・また、実際にサービスを受ける中で、様々な問題点や不備な点が出てくると思う。住民の暮らしを支える保健や医療、福祉の制度を本当に使いやすいように地域で組み立てなおしていくことが大事である。

（2）福祉専門職の地域での実践活動

- ・色々な福祉サービスが提供されているが、コンビニでモノを買うように、実際に自分で考えてサービスを受けることは難しい。そこで、相談相手として福祉専門職の存在がある。
- ・福祉専門職が地域で色々な相談活動や援助活動を行い、あるいは当事者の方（子育て世代など）を集めて組織化することもある。実際にまちに出て活動することが必要となってくる。

（3）住民主体，市民としての地域活動

- ・上京区では各学区に社会福祉協議会や住民福祉協議会があり、高齢者や子ども，障がいを持つ方のための様々な活動を行っている。これは住民福祉活動とも言うが、住民が主体となって自分達で考えて、誰もが住みやすいまちをつくるために活動していこうものである
- ・一方で、住民という括りではなく、NPOなど地縁のつながりとは違う形で色々な援助活動する組織がある。

⇒地域福祉とは、上記の3つが織り成して誰もが住みやすく暮せる、そういうことを目指すことをいう。ただし、一番大事なのは、住民自体の活動が活発になる、つまり住民主体，市民としての地域活動が活発になることである。

⇒上京区の基本計画も地域福祉も、具体的に目に見える、カタチのあるものもあれば、人のつな

がりなどそうでないものも多くあり、それらを含めて考えていく必要がある。

○地域社会の変化，人々のつながりかたの変化

- ・上京区の状況は大きく変化してきている。例えば，今出川通や堀川通にはマンションが数多く建ち並んでいる。あるいは，マンションでなくても自治会や町内会に入りづらいという方も増えている。西陣織など地域経済も厳しくなっている。
- ・ただ，日本中どここの地域も同じように厳しい状況にある。統計上，元気がよいとされる東京や名古屋でも，人々の孤立が増えたり，放火が増えたり，孤独死も増えている。どこの地域社会も良い条件で暮らしやすくなっているわけではない。
- ・その中で，人々が如何に安心して暮らせる地域をつくるか，という努力がこれまで以上に意識しなければならない社会情勢になっている。
- ・よく住民自治というが，これは常に高めていく，意識して進めていくことが求められている。まず，人と人との関係，かかわりがある。次に，関係の中での共有がある。地域にどのような課題があるのか，問題があるのか，あるいは将来こうなってほしいという方向性の共有がある。共有できれば，次に具体的に活動するための協力・共同ということがあり，協力・共同ができると組織化につながる。これは会社のような組織ではなく，それぞれの方が何とか協力して住みやすいまちにしたいという組織である。その次ぎに，協働がある。この意味は，住民組織同士，住民組織と行政というように，組織同士が連携して活動するというのである。これが，住民自治を高める過程であり，絶えず繰り返していくことが重要である。
- ・誰ともかかわることなく，生活出来るわけではない。子育てや防災の時には，必ず地域とのつながり，かかわりが必要となる。
- ・どのような生活場面で，どういうつながりをつくって，どういう共同を経験できるのかが，今後重要となる。

○計画づくりのために

- ・計画づくりに携わる方，また住民が，「私達はこんなまちに暮したい，こんな上京区にしたい，こんな上京区になってほしい」という願いをしっかりと持つことが重要で，自分のことでも良いし，周りのことでも良いが，自分がこれからこういう地域に暮したい，こんな上京区に暮したいという願いをはっきり持つとか，深く掘り下げるとか，色々な意見を吸収するというのである。計画策定にあたっては，その部分が疎かになると，みんなの計画とはならない。

ワークショップのまとめ

■テーマ：あなたにとって安心して暮せるまちとは

第1班で出された意見 キーワード：1人でも楽しい、高齢になっても住みやすい、向こう三軒両隣、触れ合う場、若い世代の参加

【福祉について】⇒1人暮らしでも安心して楽しく生活できるといい

- ・特別老人養護ホームに気楽に行けるようになれると有難い
- ・歳をとって1人暮らしになっても淋しくない生活
- ・身の回りの手続きが簡単で便利な上京区（成人後見、介護認定の手続きは難しい）
- ・認知症の方々を大切に理解するまち
- ・ずっと昔に比べたらパソコン操作で便利になったという声もあり

【地域について】⇒地域で子供を育て、地域でお年寄りを支えられるといい

■子ども&お年寄り

- ・元気な子供を育てよう（子供会をつくりたい）
- ・老人になっても住みやすい地域にしたい（おせんどさんの継続）
- ・御所で催し事をして気軽に集まれるようになるとよい（例えば、おしゃべりの場となったり、子どものときにした遊びをしたりする）
- ・年寄りと子供が話し合う場があったらよい

■地域

- ・向こう三軒両隣の関係が深くなるとよい
- ・町内単位で触れ合う場（一緒に食事をする）
- ・地域のこどもを叱れる街

■若い世代

- ・もっと若い世代が参加できる場がほしい

【健康について】⇒健康につながる場があるといい

- ・小川の運動場が気安く利用できないか
- ・堀川に水が流れてよかった（歩いたり、子供の川遊びの場となっている）

第2班で出された意見 キーワード：緊急時の相談体制、弱者の見守り活動、声掛け、子育て支援、ボランティアの高齢化、若者の参加、つながりの希薄化、バリアフリー

【福祉情報について】⇒日常生活の中で福祉情報がわかるといい

- ・1人暮らしの方の住所等守秘義務等で分かりにくい
- ・福祉情報の一括管理できないか
- ・緊急時の相談体制があればよい
- ・皆が集まることが出来れば情報交換も出来る

【支えあいについて】⇒気軽に顔を合わせる機会があるといい

- ・弱者の見守り活動が必要では
- ・町内80軒、2年に1回バスで1日遊びに行っている
- ・毎月集金に行く方が顔を見られる（声掛け等）
- ・御所で体操なんかしてみてもどうか
- ・体操であれば病気等の予防にもつながる

【子育てについて】⇒保育所が便利に使えるといい

- ・希望される保育サービスに答えられていない
- ・保育所が思うところがない
- ・三世代家族が多いので子育て支援が自然に出来ている

【世代間交流について】⇒若い人もボランティアに参加できる場があるといい

- ・ボランティアの高齢化が問題となっている
- ・福祉活動に若い人が参加しない
- ・高齢化で暮らしがしにくい
- ・1人暮らしで、近所のがつながりが希薄になっている

【市民健診について】⇒気軽に健診が受けられるといい

- ・市民健診が中止となり市民に戸惑いがある
- ・市民健診を今までのように気軽にしたい
- ・昔は健診も受けやすかった

【その他】

■マンション問題

- ・単身者用のワンルームマンションが増加し、町内で孤立している
- ・事前にオーナーや建設業者と地域とが話し合う場があればよい

■その他

- ・身近に買い物ができるようにしたい
- ・バリアフリーのまちづくりを進めたい